

第14回 長野市中心市街地活性化基本計画評価専門委員会 議事録

日時 平成27年2月16日(月)

午後1時30分から

場所 第一庁舎 8階 第二委員会室

【出席者】

	氏名
委員 (6名)	市川浩一郎委員、金澤玲子委員、越原照夫委員、渡辺晃司委員、 石川利江委員、樋口敦子委員 (欠席:高木直樹委員)
事務局 (5名)	上平まちづくり推進課長、 小田切中心市街地活性化対策室長、竹田係長、小林係長、酒井主事

1. 開会

2. まちづくり推進課長あいさつ

3. 委員長あいさつ

4. 議事

(1) 基本計画の変更について

<資料1> (説明者:事務局)

(委員)

- ・「長野駅善光寺口顔づくり事業」において実施予定の、エスカレーター及びエレベーターは、今年度中には完成しないのか。

(事務局)

- ・北陸新幹線の金沢延伸及び善光寺御開帳の終了後から、平成30年度にかけて整備するものである。

(委員)

- ・エスカレーターの建物は、誰の所有になるのか。現在の長野電鉄の地下通路への階段部分の建物の広告が派手なので、新しい建物になった際には、そのようなものは控えていただきたい。

(事務局)

- ・建物は、長野電鉄の所有物である。これまでも駅前広場の整備にあたり、派手な広告物は控えていただくようお願いしてきた経過があるが、引き続きお願いをしていく。

(委員)

- ・機会を捉えて、中心市街地活性化基本計画に位置づけた事業費の概算についての説明をしてほしい。

(事務局)

- ・決算額等についての概算の数字であれば、今年6月頃に開催予定の次回の評価専門委員会で報告ができそうである。

(委員)

- ・「中心市街地遊休不動産活用事業」については、新たなソフト事業として、非常に重要な役割を担うと思われるので、大いに期待している。

(事務局)

- ・中心市街地の一部地域で、遊休不動産を活用する取り組みを続けている民間団体があるが、その取組みを、多様な主体が参画することにより、中心市街地全域へ拡大させるための新規事業である。

(株)まちづくり長野や中心市街地活性化協議会などの民間事業者を中心に、市は後方支援に回る形で事業を実施する予定である。平成 27 年度からの3か年の事業期間の中で、見直し及び改善を図りながら、取り組んでいきたい。

(委員)

- ・県庁緑町線の未実施区間についての事業の進捗はどうなっているのか。

(事務局)

- ・これまでは、地権者等との交渉の難航により、事業が進捗しなかったが、現在は、土地区画整理手法による換地方式で、面的な整備方法を検討していくことで概ね合意しつつあり、少しずつではあるが、進捗していると理解している。

(委員)

- ・「善光寺門前オープンカフェ運営事業」は、隣接する「ばていお大門」の飲食店がオープンカフェを営業するということか。

(事務局)

- ・その通りである。「中央通り歩行者優先道路化事業」により整備されたスペースを活用してオープンカフェを運営する事業である。将来的には、沿道の商店街団体等とも協力して協議会を組織し、当該事業で整備された区間全域でオープンカフェを実施する構想があるが、当面は「ばていお大門」前で実験をするものである。

## (2) 数値目標に対する平成 26 年度の結果について

<資料2> (説明者:事務局)

(委員)

- ・北陸新幹線の金沢延伸により、人口が流出してしまう可能性が高いが、それに対応する市の政策はあるのか。

(事務局)

- ・機構改革により、今年度から「こども未来部」が創設された。  
加えて、企画政策部企画課内に「人口減少対策室」を設置した。これらの部局における新規事業等により、対策をしていきたい。  
また、中心市街地の空き家対策も、人口流出対策の一環に位置づけているため、残り2か年の中心市街地活性化基本計画でも、対策を進めたい。

(委員)

- ・利用者数が、目標 4 の「参加したくなるまち」の指標のひとつとなっている生涯学習センターについては、利用者を増やすために、施設利用方法を再考し、より利用者が使いやすいものに見直すことが望ましいのではない

か。

(事務局)

- ・ 施設所管課へご意見をお伝えし、改善へ向けて、検討を促していく。

5. 閉会